

—スキー競技部—



- 体育会名：関西学院大学体育会スキー競技部
- 創部年：1933年(昭和8年)
- 2025年度会員数：24人(4年6人、3年8人、2年6人、1年4人)

- 同窓倶楽部名：関西学院大学体育会部スキー競技部同窓倶楽部
* 関西学院同窓会 公認団体

- 同窓倶楽部通称：雪艇会(せつていかい)
 - 設立年：1934年(昭和9年)
 - 会員数：377人(男性306人、女性71人)
* 物故者含む

関学スキー競技部は1933(昭和8)年12月、山岳部から分離独立し田中務、三戸誠に
より創部された。それ以前は山岳部の中にスキー競技の部門があり、31年の全関西学生選
手権では優勝を飾っているが、その後山岳部内の方針でスキー競技部門を廃止することが決
定された。それを残念に思った三戸らが山岳部 OB の田中時男、秋山岩人らの助言を得、ま
た山岳部の了解をも得たうえで、スキー部を復活させた。

翌34年2月、「スキー倶楽部」として神戸の名店「神戸パウリスタ」にて発会式を挙行、全日
本スキージャンプの覇者緒方温光氏をコーチに本格的に練習を開始した。

35年、三戸は卒業時にスキー部の卒業生が後輩を応援指導することを目的として OB 会
「雪艇会」(せつていかい)を創設、初代会長となった。

38年1月に開催された第11回全関西学生選手権では竿田秀夫、吉岡弘泰、鈴木治雄、
大谷博、松井憲一郎、香川諭一、野口信彦らの活躍で優勝。「朝日新聞」は「特筆すべき異
彩、関西出身者ばかりの覇者関学。絶えざる努力は必ずいつかは実を結ぶものである。」と称
賛した。

38年5月の学生総会にてスケート部、馬術部とともに体育会へ加入。42年1月の全関西
第15回大会では和田晋太郎、井上章、平林政次、仙波利三郎らでスキー部として2度目の
全関西優勝を果たした。

戦後は52年ごろから、長野県などの有望選手が相次ぎ入部し、第2期黄金時代を築いて
いくこととなる。

54年の全関西では複合で田中和博、河野祐次、富井利一が1、3、5位、純飛躍でも1、5、

6位と上位を独占した。また同年のインカレ(2部)でも複合で田中、河野、富井、小谷英樹(後に大会中事故死)が1、2、4、9位を占めた。さらに55年のインカレでは関東の強豪に伍して2部優勝し、悲願の1部昇格を果たした。主力メンバーは田中、河野、富井に加え大潤博信、北垣四郎、三保金吾だった。

その後2部へ降格したが、すぐに58年のインカレで大潤、小川浩史、山谷晃、和里田崇、小林良隆らの活躍で1部へ復帰。続いての全関西で16年ぶりに1部優勝を果たす。その後、小川によるインカレ1部耐久競技2連覇、そして全関西1部で4年間、耐久、長距離で優勝という輝かしい記録が生まれている。

インカレでは61年2部へ降格、64年には3部へ降格。それ以降は3部での戦いが続くことになった。

一方で全関西では62年に30kmで広瀬良平が優勝、63年に回転で阿部寛治が、滑降で佐相光洋が優勝と2種目を制覇。64年の滑降で阿部が優勝、65年の回転で畑山隆、滑降で阿部が優勝、67年の30kmで山田誠三が優勝など、1部校としての存在感を示した。

その後も関西出身者のみのチームとなったものの、87年に2部へ降格するまで全関西1部に踏みとどまった。(途中71年に降格、74年に復帰)

その後全関西3部まで降格するが、未経験ながらも純飛躍・複合競技に挑戦する選手が増え、距離競技・アルペン競技などの選手も切磋琢磨し99年に見事全関西1部復帰を果たす。その後はインカレ2部、全関西1部での戦いが定着。近年は関学の「スポーツ選抜入試制度」が浸透し、全国の高校からスキー競技経験者が入部する傾向が顕著(特にアルペン種目)となり、部員数も増加。2014年のインカレで2部優勝し、1部昇格を果たした。

女子は初めての女子選手が1970年に入部。71年から全関西の大会に参加した。80年の大会では中島玲子が大回転・回転で2種目制覇。現在はアルペン・距離とも競技経験者が揃い、男子同様2014年に初のインカレ1部昇格を果たした。

近年は地球温暖化やスキー人口減少の影響を受け各大学のスキー部員数の減少が顕著になる中、関学スキー競技部は20人を超える部員数を確保しながらスキー競技力向上と学

力向上の両立に努めている。

雪艇会会長は浪田茂幸が務め、約280人の会員がいる。2023年10月 21 日には創部90周年記念式典を開催した。